

地域・中小企業を元気にする

月刊石垣

日本商工会議所の
ビジネス情報誌

数百年の風雪に耐えてピクともしない石垣——。

それは色や形の異なる大小さまざまな石がガッチリ組み合わせられてきています。

国の経済もまた大企業や中小零細企業が相互に補完しあってこそ、

力強い発展を続けることができるものです。

あらゆる業種・業態の大企業から中小零細企業までもメンバーとする商工会議所は、地域経済の伸長発展を担いつつ、日本経済を守り続ける「石垣」です。

題字の揮毫は、三村明夫・日本商工会議所会頭の筆によるものです。

今月の逸品

山鹿灯籠

山鹿灯籠の店 なかしま

(熊本県山鹿市)

伝えていきたい 日本の技

撮影：加藤正博



中心部分は空洞でとても軽く、曲線部分はのりしろがない。紙が重なる部分にのりを付けて貼り合わせられています

今月は、山鹿市に古くから伝わる和紙の金灯籠をご紹介します。

山鹿灯籠は2000年もの昔、景行天皇の筑紫路巡幸の際に、山鹿の人々が深い霧を松明で照らしたことが発端と伝わっています。その後、景行天皇を祀っている大宮神社に、毎年欠かさず松明を献上するようになりました。

やがて、この地域で和紙工芸が盛んになると、金灯籠を模した和紙の灯籠を奉納するようになり、毎年8月のお盆には、熊本県を代表する祭りの一つ『山鹿灯籠まつり』を開催。浴衣姿の女性たちが金灯籠を頭にのせて踊る「灯籠踊り」が披露されます。

金細工と見紛うほど精巧なこの和紙細工は、木や金具は使わず、和紙のりだけで仕上げられています。灯籠師の中島清さんは、金灯籠のほか、部屋の内部まで再現された城や寺といった作品も手がけています。また、この技術と伝統を後世に残したいと、僅少となっている弟子の育成にも力を注いでいます。